生駒山暗峠周辺の髪切・鬼取の郷に鬼伝承を訪ねる　2015.1.25.

生駒山上の暗峠をはさむ大阪側　東大阪市髪切　奈良側生駒鬼取

２月が近づくと気になる節分の鬼　「大阪には鬼の伝承　聞かないなぁ ??」と仲間が言う

大阪には　鬼伝承がないのでしょうか・・・・・・・

大阪河内と奈良の境を南北に連なる生駒山とその険しい山を越えてゆく国道 308・古道暗峠越（写真は合成です）

慈光寺の鬼面

大阪のシンボル「生駒山」山塊は古来からの霊峰・修験の山。そして古代からの鉱物資源帯で、その山麓には数多くの渡来の技術集団が住む。　花園ラクビー場でのラクビー観戦時、背後にいつも眺める生駒連山。　その背後正面が国道 308 号線　古道奈良街道の暗峠越である。

ふっと気になってチェックすると「この生駒山の暗峠周辺に役行者の鬼退治の鬼伝承がある」という。そして、鬼伝説ゆかりの鬼取山・鬼取町　髪切山・髪切集落の地名がすぐに見つかりました

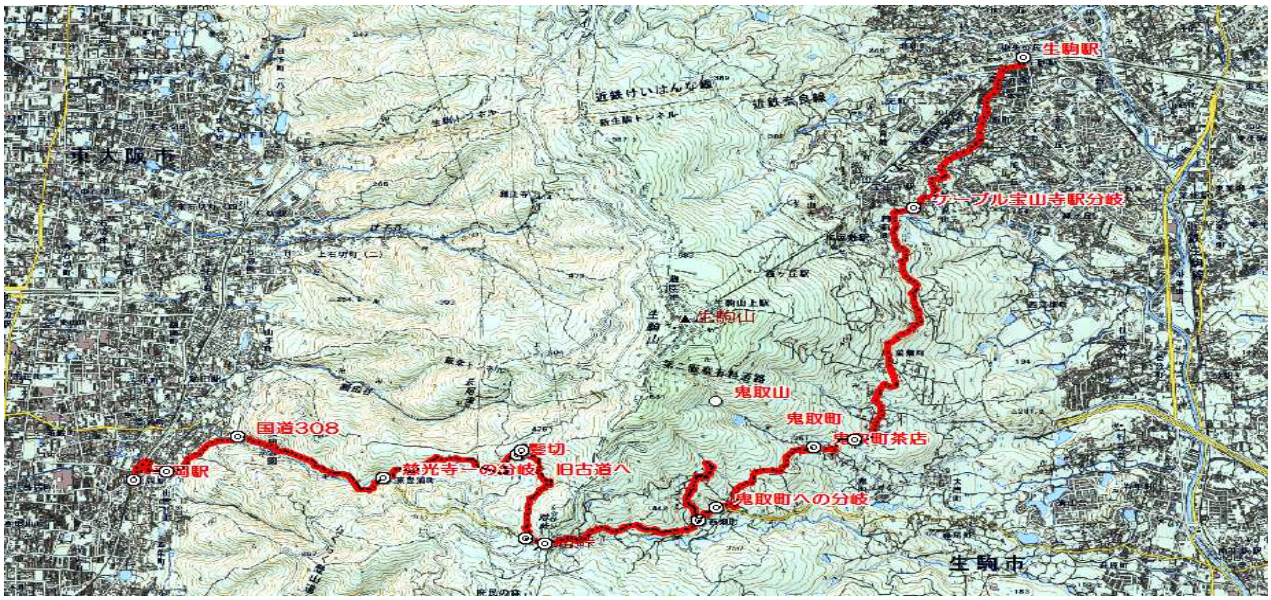
大阪河内と奈良の境を形成して南北に連なる生駒山塊は高さこそ低いが、険しい山。古くから修験・霊場の山として信仰を集め、山中には今も数多くの霊場・行場がある山としてよく知られる大坂のシンボルの山である。

その生駒山山頂のすぐ南側を越えてゆく国道 308 号線（古道　奈良街道　暗峠越）の暗峠周辺の山腹には「修験道の開祖 役行者が改心させ、従者にした赤鬼・青鬼」の鬼伝承が今も残る郷がある

「大阪にも生駒山に鬼伝承を伝える郷がある」

2 月が近づき「節分の鬼」の時節　大坂から奈良への最短ルート国道 308 号線が生駒山を越えてゆく古道・奈良街道暗闇峠越の古い家並みが残る暗峠並びに周辺の鬼の伝承地を訪ねました

2015.1.25.　by Mutsu Nakanishi



鬼の伝承地を訪ねて生駒山暗峠越　行程マップ　　2015.1.25.

1. 生駒山　役行者の鬼伝承　　生駒山暗峠周辺　東大阪市髪切・生駒市鬼取の郷

髪切山慈光寺の赤鬼・青鬼　　鬼取町から見る生駒山上・鬼取山周辺

大阪と奈良の境、生駒山域に鬼取山というところがあり、そこに人喰い鬼の話がある。
昔、赤目、黄目という夫婦鬼がおり、始はおとなしかったが、やがて人の子供を食べることをおぼえ、村々を荒らしまわった。　村人がこの鬼退治を計画しましたが、髪切山まで行くと、雨が降り、風が吹いて近寄れない。
どうしても鬼退治ができず困っていました。
そこへ、役行者が来て、鬼の子供をとらえ隠したところ、鬼が一生懸命鬼の子を探したので、役行者がその鬼に、自分の困ることは人の困ることだと説教。
鬼は非を悔いて、髪を切り行者に従ったという。この２匹の鬼が前鬼・後鬼である。

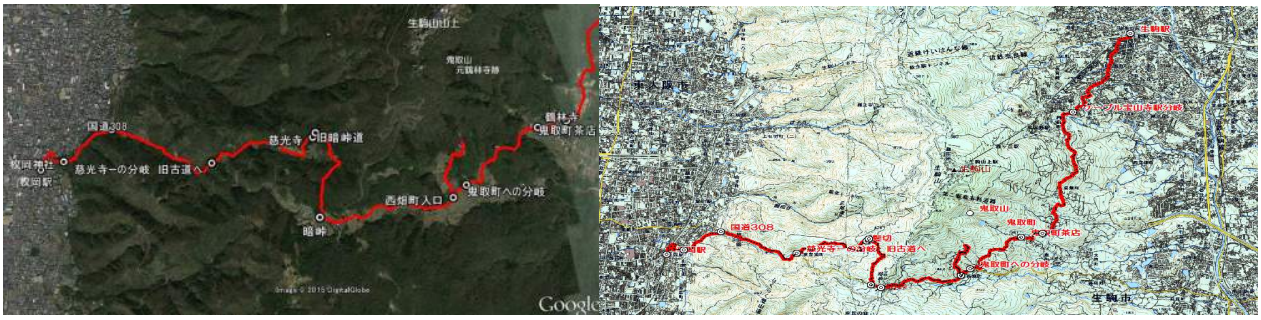
鬼が髪を切った地が生駒山の東大阪側　暗峠を北西に少し下った山中にある髪切集落で、そこにある髪切山慈光寺は役行者が開祖といい、春の「戸開式」には、青鬼と赤鬼に扮装した二人と修験者が石段を駆け上って開山堂の鍵を開け、役行者尊像のご開帳される。また、秋の「戸閉式」 では開山堂の扉を閉ざすという。
また、鬼が役行者に捕らえられた鬼取山は暗峠を東に少し下った現在頂上にテレビ塔の立っているあたりの生駒谷側北方山腹で、境内に「薬師の滝」がある元鶴林寺跡と言われている。
その谷筋を少し下ったところ　山腹の傾斜地に広がる鬼取町地名を持つ鬼取集落があり、鬼取山から後に移された鶴林寺が今もこの鬼取集落内にある。
また、鬼取山元鶴林寺境内にある「薬師の滝」からは黄金が出ると言う伝承もある。

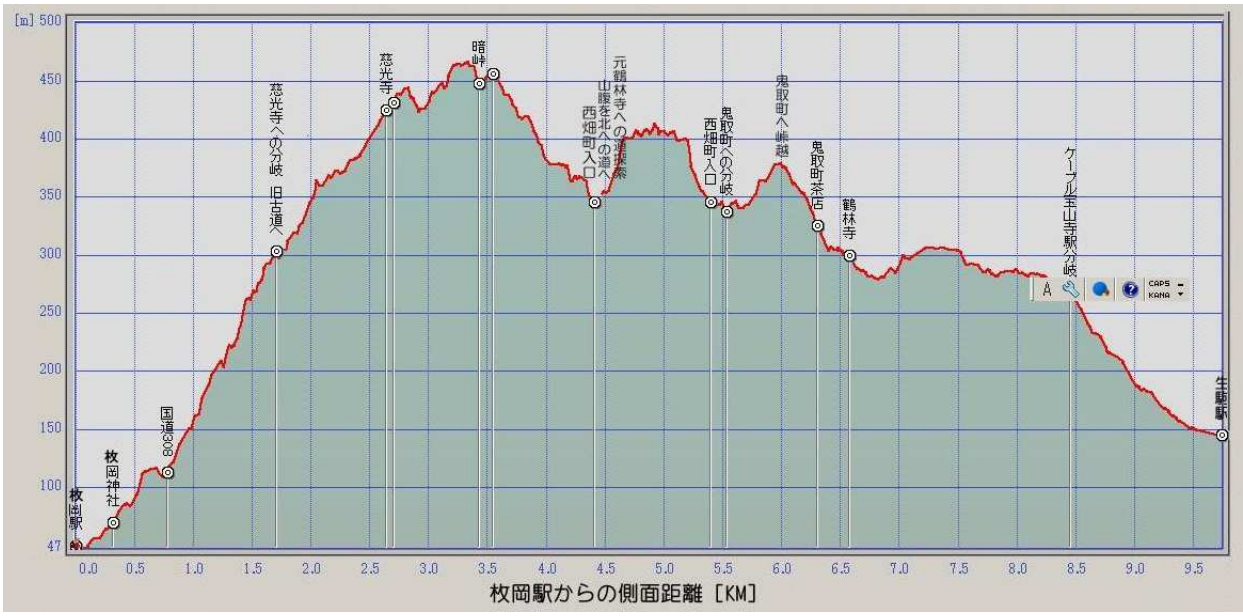
生駒山　髪切山慈光寺の３月開山堂「戸開式」の鬼　　慈光寺案内板掲示写真より

2. 鬼の伝承地を訪ねて生駒山暗峠越　　2015.1.25.

近鉄枚岡駅 － 国道 308 － 髪切・慈光寺 － 暗峠 － 国道 308 － 鬼取町 － 生駒駅

東大阪市花園ラグビー場より眺める生駒山　正面が生駒山山上　その右側が暗峠　2015.1.24.





東大阪市側　近鉄奈良線枚岡駅から国道 308 号・古道　奈良街道暗峠越　walking Map

1.　国道 308 号を登って　鬼伝承の髪切集落から暗峠へ

12:00 **近鉄枚岡駅**→枚岡神社・椋ケ根橋→**国道 308・古道　奈良街道**→12:30 髪切集落・慈光寺へ分岐

→　奈良街道旧道→　12:50 **髪切集落・慈光寺**→13:17 奈良街道旧道を暗峠へ→13:30 **暗峠**

2.　暗峠から奈良側へ下って鬼取町を訪ねて　近鉄生駒駅へ

14:05 **暗峠から生駒側へ　→**国道 308→14:25 西畑町入口から**鬼取山への道を探しながら鬼取町へ峠越**

→15:00 **鬼取町　鬼の茶屋　→**15:10 **鬼取町鶴林寺** → 生駒山山腹を北へ近鉄生駒駅へ →16:10 **生駒駅**

2.1.　国道 308 号を登って　鬼伝承の髪切集落から暗峠へ

12:00 **近鉄枚岡駅**→枚岡神社・椋ケ根橋→**国道 308・古道　奈良街道**→12:30 髪切集落・慈光寺へ分岐
→　奈良街道旧道→　12:50 **髪切集落・慈光寺**→13:17 奈良街道旧道を暗峠へ→13:30 **暗峠**

酷道とよばれる国道 308・奈良街道暗峠越　　生駒山山頂直下髪切集落　　暗峠

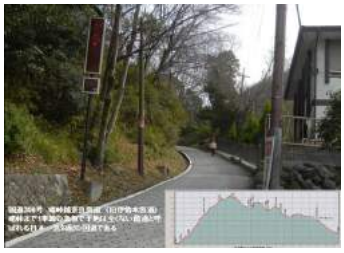
1 月 25 日晴天の日曜日　大坂難波からまっすぐ東へ生駒山へ向かう近鉄電車。神戸からダイレクトに奈良行の快速急行に乗り、途中鶴橋で乗り換えて、約 1 時間ほどで生駒山の山腹を少し登った所　枚岡駅で下車する。

いつもなら、　ここは電車で通過して、石切駅から生駒山をトンネルを抜けて生駒駅　そして奈良へ向かう。

毎度　花園ラグビー場から眺め、梅で有名な枚岡神社があり、ここから暗峠への道があるのは知っていましたが、この地に降り立つのは初めてです。時間はちょうど 12 時。駅で暗峠へのハイキングマップをもらって暗峠へ

河内一宮　枚岡神社とその北側を登る暗峠越の入口椋ケ根橋　　2015. 1. 25. 2

国道 308 号・古道　奈良街道暗峠越の道は古来から大坂・奈良を結ぶ最短コースであるが、狭い谷筋をほぼ直登で生駒山上南側を越える厳しい道。　国道とはいえ、東大阪市枚岡駅近くの東豊浦町にある勧成院の海抜が 100m で、暗峠の海抜は 450m と高低差の大きい山中を平均斜度 20%、最大斜度は 37%と、自動車通行可能な国道としては日本一の急勾配をよく整備はされているとはいえ、途中平坦地は一箇所もなく、ほぼ一車線の道が暗峠へ登ってゆく。下りとなるとまるで山を転げ落ちる感覚の酷道と呼ばれる国道。すぐ北側を第二阪奈道路がトンネルで生駒山を抜けていく事もあって、まず大型車は通れず、小さな車が通る周辺集落の生活道路化していて、生駒山の自然の中を山深く分け入るハイキング道路にもなっている。



椋ケ根橋から上は暗峠まで集落はなく　すべり止めが施された急坂が上へ上へと続く　2015. 1. 25.

また、静かな森のなか　谷を登る道筋のところどころで　古い霊場・行場・寺院が現れ、崖際の厳しい坂道とともに、この生駒山が修行の山・霊山であるとの痕跡を色濃く残している。

緑に覆われたきつい崖道のところどころに行場・霊場などがみられ、この山が修行の山と　2015.1.25.

谷筋の緑の中をよく整備された坂道をぶらぶら登って、約30分ほど。谷道のドン突きから左へ坂道が急に大きくターンして、左に深い谷が現れ、視界がひらけ、生駒山の頂上稜線が視界に。
稜線の切れ目が暗峠のようだ。
暗峠はもうすぐそこ。

谷筋の道から左へ急坂がカーブして暗峠へ更に登ってゆく

この左手崖のところに道標が見え、「左　ほととぎすの名所　髪切山慈光寺　右くらがり峠」と書かれている。
ここから谷筋へ下りてゆけば、髪切集落。　左手に見えているのが髪切山。
人の気配のない山中に鬼伝説の「髪切」集落が埋もれている。
道はもっと先からもあるようですが、ここから谷筋へ下りてゆく。

しっかりとした細い道が小さな谷に沿って続く。人の気配のない山道。道がしっかりしているので不安はない。
谷底へ下りきったところに、鐘堂があるが、廃屋となった寺跡が見える。この道は古道だとほっとする。
このお寺は白蓮寺という名前のようだ。また、ここにお寺があることも含め、かつて　この道が、髪切集落を通って暗峠への街道筋だったようだ。

髪切集落への旧道　谷筋を歩く　中央の写真が白蓮寺跡　　2015. 1. 25.

道はこのお寺跡の横からから、山腹を少し登ってゆくと池の横に道がそう。　この池が地図にある髪切集落の一番下にある池。　ブッシュで両側が見えぬ狭い谷筋を登り切るとぱっと山腹の斜面に切り開かれた段々畑が見えてくる。
国道 308 の道標から　15 分ほどで髪切集落の下の入口に飛び出した。

国道 308 髪切集落への道　暗峠とは　本のすぐそば　　右に曲がりくねって登ってゆく国道が見える

役行者の鬼伝承が残る髪切集落　　東大阪市街地から見えていた生駒山の山上を東西にわたってゆく鉄塔がすぐそこ
振り返ると　遠く眼下に東大阪の市街地が霞んでいました。棚田の上に 10 軒にも満たない髪切集落　この一本道が街道筋?? かと。地図によれば、鬼伝説の慈光寺は斜面の一番奥の高いところで、集落の一番奥だ。
集落の左手の山が髪切山。集落内を歩く数人の観光客以外に人影のない。
ふと気づくと姿は見えないが、猿の鳴き声が響き渡る。山中に埋没した限界集落との感じがつよい。
今回は旧道を歩いてきましたが、集落の中央まで細いが暗峠からの車道も入り、枝尾根を一つ越えれば暗峠の街道。
心配はいらないのだろう。　都会人にとっては　車とは無縁の静かな空間がひろがる山里がこんな近くにあると。
　ほととぎすなど野鳥の名所だそうだ。

綺麗に整備された石垣に囲まれた段々畑が続く鬼切りの郷　振り返ると遠く東大阪の市街地が見える

集落の中に入っても、全く人の気配がない。でも　綺麗に整った集落で、日曜日で人影がないだけなのかもしれない。
静まり返った髪切集落の中を抜けて　一番奥の慈光寺へ。家並みはなくなっているが、道筋には立派な石垣が続き、
道の奥に屋根が見えているのが慈光寺のようだ。集落の一番奥だ。

よく整備された集落の中を一番奥の慈光寺に向かってゆく　　20154.1.25.

髪切山　慈光寺　門前　と　門前から眺めた東大阪の市街地

13:04　髪切山慈光寺に到着。髪切伝説に惹かれてここまでやって来ましたが、門前にも人影はなし。
結局集落で見かけたのは数人のハイカーのみ。
役行者と言うとみんな吉野金峰山寺　そして大峰山を思い浮かべるのですが、それよりも古い霊場がこの生駒山。
それを伝えるのが、この髪切山慈光寺の鬼伝説です。

いまから 1300 年前　この地で役行者が悪さをする夫婦鬼を捉えて改心させて、従者となった夫婦鬼が有名な前鬼と後鬼。

慈光寺では　この開祖役行者をまつる開山堂の戸開式・戸閉式に赤鬼・青鬼が修験者と一緒に、扉の鍵を持って石段を駆け上がり、開山堂の戸開式・戸閉式を行うという。

各地で節分には改心して仏に仕える鬼のユーモラスな姿が見られるが、そのルーツがこの伝説なのかも知れない。

山門をくぐると山門脇に鐘楼そして河内三十三ヶ所観音霊場の札所・寺務所があり、本堂と開山堂は一段上に上がった山裾にありました。寺の中にも人はおられませんでしたが、お接待のお茶が置いてあり、鬼伝説の由来や鬼の儀式の写真と一緒にこの慈光寺の由来を記した書が掲示板に貼られていました。お寺の心配りが嬉しい。

慈光寺の山門をくぐった札所の横に掲げられた慈光寺の案内写真・絵図より

石段を上がって　一段高い境内の木立の中の東正面に役行者開山堂があり、北正面に本堂がありました。
開山堂の扉はまだ　春の戸開式の前で閉められていました。

役行者開山堂　　慈光寺本堂

いや～ぁ　鬼が出そうとは思いませんが、この髪切集落への暗峠への街道は想像とは違って本当に他所では見られぬ道。
本当に古道にはいろいろな人達が行き来し、いろんなことが詰まっていると。
詳しくは知らなかった生駒山の鬼伝説を今回はじめて知りました。

13:15　この慈光寺の境内からそのまま寺の裏側を回りこんで寺の東側に出ると一軒新しい家があり、庭先で仕事をするおばさん。この集落で初めて出会う住人で、「このままこの道を行って南へ折れれば暗峠に出る」と教えてもらいました。

広い道はこの家の庭先でおしまいで、そこからは山裾を東へ山道が伸びていて、「奈良街道　暗峠石畳道」と書かれた案内板があり、そこを少し登ったＴ字路の角に「暗峠・旧奈良街道　暗峠まで０．４キロ」と書かれた分岐道標が立っていて、　この道がかつての暗峠越の山道とし知れました。

慈光寺の東側を奥へ伸びる旧奈良街道　の古道　　2015.1.25.

この道標に従って　右側へ折れて　杉木立の中を南へ　約 15 分ほどで　国道 308 号線暗峠に出ました。

奈良街道暗闇峠越　暗　峠　　2015.1.25.　　中央左:生駒市　右:東大阪市

歩いてきた道は生駒山の稜線の道で、正面の東西に並ぶ家並みは奈良街道国道 308 号線暗峠の家並み。
国道に出ると何度か写真で見た暗峠の石畳道でした。でも石畳道は峠部のほんの数十メートルだけ。あとは両側ともすべり止めのついた舗装道路に整備されていました。

峠から少し大阪側へ下りたところで　カワセミ? が電線に　　2015.1.25.

髪切の集落では野猿の声が響き渡り、街でみかけぬ野鳥が幾つか・・・
生駒山は険しい分だけ　自然が残されている。
暗峠　すぐ生駒側に右手に峠の茶屋　時間を見ると 13:45
生駒側の鬼が捕まったという鬼取山・元鶴林寺周辺の情報を教えてもらうことも兼ねて遅い昼食に 。

国道 308 号の急坂から、暗峠のすぐ下で、鬼伝承の残る髪切集落へトラバースする旧道を通って、髪切集落へ。
役行者によって改心した赤鬼・青鬼の伝承の慈光寺に立ち寄り、暗峠へ。約 1 時間 30 分の行程。
一度登ってみたいと思っていた国道 308　暗峠
国道を歩くのだと思って登ると予想外。ちょっとキツイが、楽しいハイキング。食事後は奈良側へ。

2．2　暗峠から奈良側へ下って鬼取町を訪ねて　近鉄生駒駅へ

14:05 **暗峠から生駒側へ**　→国道 308→14:25 西畑町入口から**鬼取山への道を探しながら鬼取町へ峠越**
→15:00 **鬼取町　鬼の茶屋**　→15:10 **鬼取町鶴林寺** → 生駒山山腹を北へ近鉄生駒駅へ →16:10 **生駒駅**

生駒側の国道 308 号線

鬼取町から眺める鬼取山・生駒山上

14:05　生駒側　鬼が捉えられたという伝承の鬼取山・鬼取町周辺へ　暗峠から奈良・生駒側へ下る。
峠の茶屋で遅い昼食を取りながら、生駒山山頂部から生駒側へ少し下った山中という「鬼が捉えられたという鬼取山の元鶴林寺跡・薬師の滝」へ行く道を尋ねるが、どうも道がはっきりしない。
　15000 分の 1 の地図で、地形と場所はわかるのですが、道が記されていない。生駒山頂上側からの道は確かなようですが、鬼取町へ下れるかどうかがはっきりせず。
　　鬼取町からの道も今ははっきりしないと聞き、今回は鬼取町まで下りて、時間があれば元鶴林寺跡を探すことにして、鬼取町にある「鬼の茶店」を教えてもらって出発する。

生駒山の鬼伝承地　鬼取山　鬼取町周辺

役行者が鬼の髪を切って改心させた地が生駒山の東大阪側　暗峠を北西に少し下った髪切山慈光寺。鬼が役行者に捕らえられた鬼取山は暗峠を東に少し下った生駒谷側の北方山腹の鬼取（現在は生駒市鬼取町）で、鬼取町の鶴林寺の元の寺のあった場所（元鶴林寺跡）だという。
生駒山頂の東斜面に深く刻まれた谷奥で、いかにも鬼の住処伝承が誕生しそうな「薬師の滝」あるいは「八大竜王の滝」附近の霊場附近が、旧鶴林寺跡といわれている。
また、鬼取集落の鶴林寺は山号は鬼取山といい、近世に谷奥から移ってきたと言われている。

峠の茶屋から、生駒山上の稜線部を南北に貫く、信貴生駒スカイラインをくぐって生駒側へ下りてゆく。
国道は大阪側と変わって､2 車線の展望のきく広い道路で車の往来が多い道。谷筋に沿って、急坂が下へ下へと続く。道脇の崖の下の谷には棚田がひろがり、遠く生駒市の街が遠望できる。

暗峠から奈良側の下り　急坂が続くが広い道路に視界が開けて快適　2015.1.25.

14:20　国道を下って 15 分あまり、山側の尾根を一つ回りこむと西畑町の集落の入口で、集落の奥に生駒山のパラボラが見え、鬼取り山周辺だ。高さから見ると随分下った。地図を開けて、鬼取山への道を考える。

西畑町の上から北へ山腹を道があるかどうかわからないが、左へ折れて集落の中を山腹を奥へトラバースすれば、鬼取町から谷筋をまっすぐ登ってくる道に合流できると気楽に道を折れたのですが、西畑町の集落の奥にある道願寺のところで行き止まり。　奥へは道はなく国道へ戻らないと鬼取町へも行けないと聞いて逆戻り。

ちょっとロスでしたが、西畑町の道にはロウバイが満開　そして棚田の美しいも見られました。

国道 308　暗峠越　生駒谷の景色　西畑町で　2015.1.25.

30 分ほどロスして、国道に出て、すぐ下に国道と別れて斜面を斜めに登ってゆく道があり、その入口に「鬼取町」の標識がありました。　この道が西畑町から鬼取町へ山腹を斜めに北へトラバースして、峠越で鬼取町の「上」へ出る道でした。

峠越えの道を少し歩いて、尾根をひとつ隔てた東のなだらかな谷筋生駒山東斜面にひろがる鬼取町に出ました。

鬼取町の東正面には遮るものなく、眼下には生駒の街が展望。　鬼取町というから、もっと森に包まれた中に街が広がっているのかと思いましたが、緩やかな谷筋の生駒山山腹の傾斜地　ほとんど平地がありませんが、鬼取山の斜面を切り開いて坂に沿って家並みや段々畑がつづき、太陽がサンサンと降り注ぐ街でした。15:00 ちょうど鬼の茶屋前到着。

見上げる生駒・鬼取山　　2015.1.25.　鬼取町　鬼の茶屋前より　　2015.1.25.

この谷筋の奥　山中で役行者が赤鬼・青鬼を捕まえ、改心させた　それが前鬼・後鬼

生駒山が日本最古の霊場・行場であることを示す伝承でもある

暗峠の茶屋で教えてもらった「鬼の茶屋」のご主人から元鶴林寺への道を教えてもらいに峠の茶屋へ

「　鬼が捕まったという元鶴林寺・薬師の滝へはここから谷筋を登ってゆく山道がある。
　　健脚で上り約45分　下り20分　今からだと行けん事ないが、日が暮れると山中　真っ暗になるので、
　　ちょっとキツイよ。　この谷筋登ればいいよ　でも　ここから眺める鬼取山が一番」と。

ちょっと手前で聞いた村の人も同じ事を言っていました。

往復1.5時間　程度でしょうが、冬の日暮れは早い。まして、山の東斜面の谷筋での初めての場所。踏跡を間違うと山中迷う恐れあり山中で写真撮ったり、ウロウロしていたら日が暮れる。

下の鬼取町へ下る道が残っていることまた、下の鬼取集落が予想より明るい斜面上とわかったので、次回生駒山山頂から下ろう。　今日はこのまま　谷奥の鬼取山から移ってきたという鉄鶴林寺を経て、近鉄生駒の駅へ降りると決める。

10分ほど下って、鶴林寺の前に出て、そこから生駒山の山腹に沿って東にトラバース。

鬼取街から約1時間弱で近鉄生駒の駅に帰りつきました。

慈光寺の鬼面

「大阪には鬼の伝承　聞かないなぁ ??」　仲間からと問われ、
よく眺める大阪のシンボル生駒山は古来からの霊峰　修験の山。そして古代　生駒山は鉱物資源帯であり、
その山麓には数多くの渡来の技術集団が住み、数々の伝承があるときく。
それらと関係して　修験の鬼の伝説があったのでは・・・・・・と。
大阪の人は知っておられたのでしょうが、この生駒の鬼が　修験の前鬼・後鬼などとは知りませんでした。
そして　その伝説の地が　よく見上げる暗峠の周辺とは・・・・
この鬼伝承と一緒に一度は越えたいと思っていた暗峠越での道をたどることが出来ました。

枚岡駅から　暗峠越して生駒駅まで　約 9km　距離的には大したことないのですが、生駒の駅についた時には
足が棒のようでした。　国道 308　奈良街道暗峠越　国道歩きと気楽に思っていましたが、いまさらながらきつい。
今まで見たこともない平坦道のない坂だけの道。酷道の所以。
それが逆に生駒の自然　そして修験の道　古道の道筋をそっくりそのまま残し、鬼伝承の集落も残していると。
本当に面白い古道歩きでした。また、野猿の声が響き渡り、野鳥が飛び交う森　生駒の知らなかった一面も
うれしい鬼 walk　大阪の鬼 Walk でした

2015.1.25.　夕　心地よい疲れを感じながら
山越えした生駒の山を今度はトンネルでくぐり抜けています
Mutsu Nakanishi

生駒山暗峠周辺の髪切・鬼取の郷に鬼伝承を訪ねる　2015.1.25.

【　スライド原画集　】

2月　節分が近づくと気になる鬼のこと　大阪のシンボル「生駒山」山塊は古来からの霊峰　修験の山
そして　古代　生駒山は鉱物資源帯で　その山麓には数多くの渡来の技術集団が住む
ふっと気になってチェックすると鬼取山・鬼取町　髪切山・髪切集落の地名がすぐに見つかり・、
生駒山山頂部　暗峠周辺には役行者の鬼伝説が有るという。　大阪にも　生駒山に鬼伝承が残っている
2月節分の鬼の時節　古道　旧伊勢街道・奈良街道暗闇峠越の生駒山の暗闇峠の古い家並みが残る暗峠
並びに鬼の伝承地を訪ねました　　2015.1.25.　by Mutsu Nakanishi

生駒山暗峠周辺の髪切・鬼取の郷に鬼伝承を訪ねる　2015.1.25.

生駒山上の暗峠をはさむ大阪側　東大阪市髪切　奈良側生駒鬼取
大阪河内と奈良の境を形成して南北に連なる生駒山塊は高さこそ低いが、険しい山で、
古くから修験・霊場の山として信仰を集め、山中には今も数多くの霊場・行場がある信仰の
山としてよく知られている

国道308号線・古道　奈良街道が生駒山を越えてゆく暗峠周辺の山腹には
「修験道の開祖 役行者が改心させ、従者にした赤鬼・青鬼」の鬼伝承の郷がある

生駒山暗峠周辺　東大阪市髪切・生駒市鬼取の郷の鬼伝承

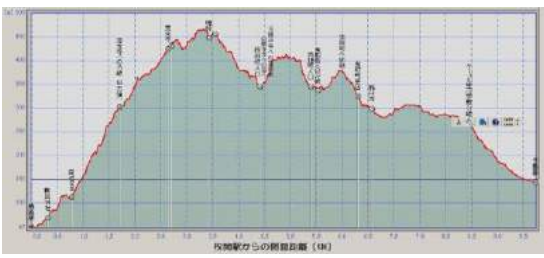
鬼取町から見る生駒山上・鬼取山周辺

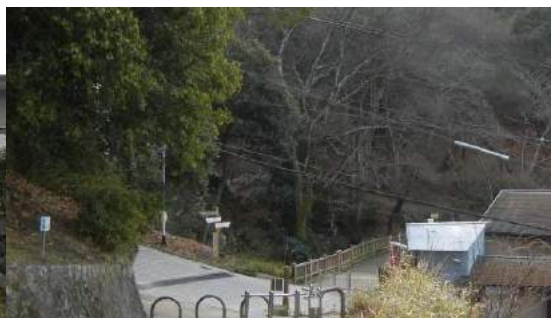
髪切山慈光寺の赤鬼・青鬼

大阪と奈良の境、生駒山域に鬼取山というところがあり、そこに人喰い鬼の話がある。
昔、赤目、黄目という夫婦鬼がおり、始はおとなしかったが、やがて人の子供を食べることをおぼえ、村々を荒らしまわった。　村人がこの鬼退治を計画しましたが、髪切山まで行くと、雨が降り風が吹いて近寄れない。どうしても鬼退治ができず困っていました。
そこへ、役行者が来て、鬼の子供をとらえ隠したところ、鬼が一生懸命鬼の子を探したので、役行者がその鬼に、自分の困ることは人の困ることだと説教。
鬼は非を悔いて、髪を切り、行者に従ったという。この2匹の鬼が前鬼・後鬼である。
鬼が髪を切った地が生駒山の東大阪側　暗峠を北西に少し下ったところにある髪切山慈光寺は　役行者が開祖といい、春の「戸開式」と秋の「戸閉式」には、青鬼と赤鬼に扮装した二人と修験者が石段を駆け上って開山堂の鍵を開け、役行者尊像が開帳される。
また、鬼が役行者に捕らえられた鬼取山は暗峠を東に少し下った現在頂上にテレビ塔の立っているあたりの生駒谷側北方山腹で、境内に「薬師の滝」がある元鶴林寺跡と言われている。
「薬師の滝」からは黄金が出ると言う伝承もある。
現在鬼取山鶴林寺はそこから、山を少し下った鬼取集落内にある。

古代から生駒山やその山麓には山岳宗教・鉱山師・渡来の技術集団など異界の存在と思われる人々が数多く　おり、それらの人との接触・交流の中で、この鬼伝承が生まれたのだろうか……。

「生駒山の鬼伝承を訪ねるwalk」の出発は近鉄奈良線「枚岡駅」から　2015.1.25.





12:00　枚岡神社の本殿の横から北へ山裾の遊歩道を抜け、
椋ケ根橋を渡ると暗峠越の国道308に出る。 2015.1.25.

有名な暗峠越えの国道であるが、道はまっすぐ生駒山稜線の暗峠へ急坂を登る日本一急勾配の自動車道。阪奈道路ができて　自動車はもう　ほとんどこの狭い急坂を登らず、旧伊勢街道の生駒越え。　古道に残る行場を覗きながらのハイキング

生駒山の鬼伝承地　髪切山 慈光寺

1300年前、髪切の里には鬼の夫婦が住み、食べ物がなくなると暗峠越えの街道で旅人を襲い、喰っていた。しかし、役行者が密教の法力を使って鬼を捕らえ、仏法を説いて改心させたところ、鬼は非を悔いて髪を切り、行者に従ったとか。 役行者は鬼が髪を切ったこの地にお堂を建立。 髪切山慈光寺といい、この集落を「髪切集落」という。
役行者に従うこの鬼が大峰山の前鬼・後鬼である。また、役行者をまつる慈光寺開山堂春の「戸開式」(3月第三土曜日)と秋の「戸閉式」(9月第三土曜日)には、青鬼と赤鬼に扮装した二人と修験者が石段を駆け上って、開山堂の鍵を開け、役行者尊像が開帳される。
なお、髪切集落をかつて伊勢本街道・奈良街道暗峠越の街道が通り、繁栄した集落だった。

Google earthの鳥瞰写真でみると　すぐ上が生駒山の稜線で枝尾根を挟んですぐ右が暗峠。
小さな谷筋のドン突きが髪切集落で、
かつてはこの谷筋を暗峠越の街道が通っていたようだ。

12:30　髪切山慈光寺への入口道標　2015.1.25.

慈光寺の左手の山が髪切山。集落内を歩く数人の観光客以外人影のない。 ふと気づくと姿は見えないが、犬の鳴き声が響き渡る。山中に埋没した限界集落との感じがつよい。
細いが暗峠からの車道も入り、枝尾根を一つ越えれば暗峠の街道。
心配はいらないのだろう。 ほととぎすなど野鳥の名所だそうだ。

役の行者の鬼退治の伝承が残る髪切り集落　周囲を山に閉ざされた隠れ里の雰囲気である

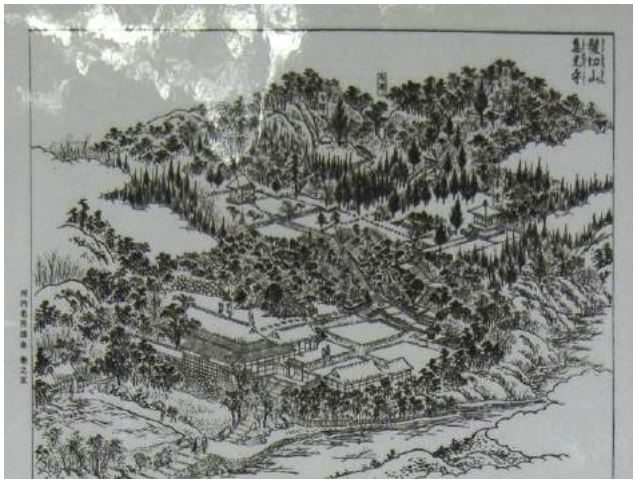
慈　光　寺

真言密盛舎那宗に属し、役行者が生駒山中で鬼を捕らえ、髪毛を切って改心させたとの伝説から髪切山と号します。梵鐘の銘文によると、寺にはもと承保2年(1075)鋳造の銅鐘があったことが刻まれており、平安時代より存在した寺であることが知られます。

堂宇は、天正年間に兵火によって焼失したとされ、その後寛文6年(1666)に再興、江戸名所にはホトトギスの名所として知られ、現在は境内が府の名勝に指定されています。享和元年(1801)の『河内名所図会』には、鬼行者堂の位置に本堂、現本堂の位置に観音堂、他に方丈、鎮守が描かれています。

また古来、寺には興隆時には伽藍が存在したとされ、かつては広大な寺域と多数の僧坊を有していたことが伺われます。

鐘楼に吊るされた梵鐘は、鎌倉時代の正応2年(1289)に鋳造された市内最古の銅鐘です。また、行者堂にまつられている板絵著色千手観音図は、高さ154.2cm、幅48.2cm、厚さ1cmの檜板の周縁を墨と朱で縁取りし、板面に胡粉を塗り十一面千手観音像を描いています。背面には、天文18年(1549)の年号とともに寺の歴史が墨書されています。銅鐘、板絵は府の文化財。このほか境内には天正19年(1591)の花崗岩製十三仏板碑が残されています。



髪切山慈光寺に残る役行者鬼伝承

役行者をまつる慈光寺開山堂　と3月戸開式で開山堂へ向かう赤鬼・青鬼

大和（奈良）から、河内を経て難波（大阪）に至る古道の国境に位置する暗峠（くらがりとうげ）。江戸時代には俳聖・松尾芭蕉をはじめ、多くの旅人が行き交ったというこの峠から近い髪切の里に、真言宗の古刹・慈光寺がある。
1300年前、髪切の里には鬼の夫婦が住み、食べ物がなくなると暗峠越えの街道で旅人を襲い、喰っていた。しかし、役行者が密教の法力を使って鬼を捕らえ、仏法を説いて改心させたところ、鬼は非を悔いて髪を切り、行者に従ったとか。
その地にお堂を建立したのが慈光寺。
境内は府の名勝に指定。春の「戸開式」（3月第三土曜日）と秋の「戸閉式」（9月第三土曜日）には、青鬼と赤鬼に扮装した二人と修験者が石段を駆け上って開山堂の鍵を開け、役行者尊像が開帳される。

Yahoo ブログ「きままにのんびり」より
http://blogs.yahoo.co.jp/hanamizuki2996/34899726.htm

開祖役行者をまつる開山堂　今年の祭礼は3月22日　扉は閉ざされていました。

髪切山 慈光寺本堂　2015.1.25.

13:17　慈光寺の奥からそのまま暗峠へ続く山道　2015.1.25.

暗峠・旧奈良街道　暗峠まで0．4キロの道標

奈良街道暗闇峠越　暗　峠　2015.1.25.　中央左:生駒市　右:東大阪市
歩いてきた道は生駒山の稜線の道で、正面の東西に並ぶ家並みは
奈良街道国道308号線　暗峠の家並みでした。

国道308　奈良街道暗峠越　暗峠街道筋の家並み

峠から少し大阪側へ下りたところで カワセミ? が電線に　2015.1.25.

峠から少し大阪側へ下りてみる　2015.1.25.

暗峠　東大阪側　出迎え地蔵　2015.1.40.

暗峠　すぐ生駒側に右手に峠の茶屋　時間を見ると13:45
生駒側の鬼が捕まったという鬼取山・元鶴林寺周辺の情報を教えてもらうことも兼ねて遅い昼食に

14:05　生駒側　鬼が捉えられたという伝承の鬼取山・鬼取町周辺へ
暗峠から奈良・生駒側へ下る　2015.1.25.

鬼伝承の「鬼取」の地名が残る鬼取町とともに、鬼が捉えられた場所という元鶴林寺跡・薬師の滝へ行く道がはっきりしない。生駒山頂上側からの方が道が確かのようですが、鬼取町へ下れるかどうかがはっきりせず。 また、鬼取町からの道も今ははっきりしないと聞き、今回は鬼取町まで下りて、時間があれば元鶴林寺跡を探すことにして出発。

生駒山の鬼伝承地
鬼取山　鬼取町周辺

1300年前、髪切の里には鬼の夫婦が住み、食べ物がなくなると暗峠越えの街道で旅人を襲い喰っていた。しかし、役行者が密教の法力を使って鬼を捕らえ、仏法を説いて改心させたところ鬼は非を悔いて髪を切り、行者に従ったという。
鬼の髪を切った地が生駒山の東大阪側　暗峠を北西に少し下った髪切山慈光寺。鬼が役行者に捕らえられた鬼取山は暗峠を東に少し下った生駒谷側の北方山腹の鬼取(現在は生駒市鬼取町)で、鬼取町の鶴林寺の元の寺のあった場所（元鶴林寺跡）だという。
鬼取集落の鶴林寺は山号は鬼取山といい、薬師十二神将を祀る小さなお堂と建物の基壇跡らしいものがひっそりと残るだけであるが、この寺は近世に生駒山頂の東斜面に深く刻まれた谷奥から移されて来たもので、いかにも鬼の住処伝承が誕生しそうな「薬師の滝」あるいは「八大竜王の滝」附近の霊場附近が、旧鶴林寺跡といわれている。

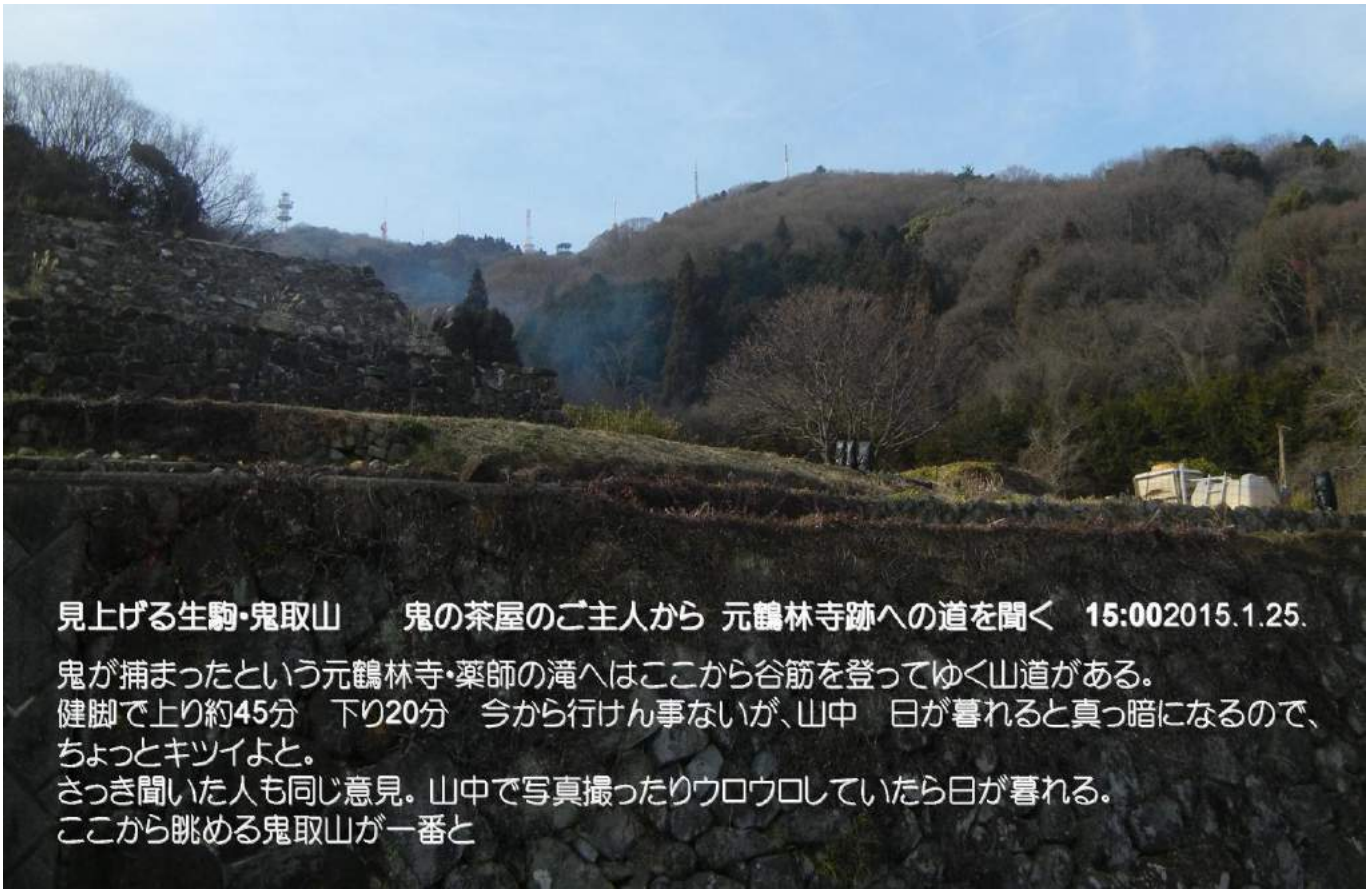
暗峠　生駒側　鬼取町へ下る　　2015.1.25.
峠の茶屋から、信貴生駒スカイラインをくぐって生駒へ
国道は大阪側と変わって展望のきく広い道路。でも急坂が続く。

暗峠遠望　奈良・生駒市側　国道308　　2015.1.25.

暗峠　生駒側　鬼取町へ下る　　2015.1.25.
正面に生駒の平地そしてその奥山向こうに奈良盆地が霞んで見えている

暗峠の下　奈良・生駒市側　　2015.1.25.

鬼が退治された生駒奈良県側　鬼取山の山腹の下に広がる鬼取集落　まだ　かなり高所の山腹に広がる街である


見上げる生駒・鬼取山　　鬼の茶屋のご主人から 元鶴林寺跡への道を聞く　15:00 2015.1.25.
鬼が捕まったという元鶴林寺・薬師の滝へはここから谷筋を登ってゆく山道がある。
健脚で上り約45分　下り20分　今から行けん事ないが、山中　日が暮れると真っ暗になるので、
ちょっとキツイよと。
さっき聞いた人も同じ意見。山中で写真撮ったりウロウロしていたら日が暮れる。
ここから眺める鬼取山が一番と

鬼の茶屋
P
見上げる生駒・鬼取山　2015.1.25.　鬼取町　鬼の茶屋前より
この山中で役行者が赤鬼・青鬼を捕まえ、改心させた　それが前鬼・後鬼
生駒山が日本最古の霊場・行場であることを示す伝承でもある

茶屋
15:00 暗峠の茶屋で教えてもらった鬼の茶屋

生駒市鬼取町　2015.1.25.

15:10
鬼取山　鶴林寺
Kakurinji Temple
鎌倉時代の「諸山縁起」に寺名が載る。山号の鬼取山は、役行者が義学、義賀の二鬼を捕らえたという伝承による。もとは生駒山麓に伽藍を有したが、江戸時代に現在地へ移転した。「行基開基」とも伝える。室町時代の六字名号板碑などが残る。
ふるさとの文化財を大切に
生駒市教育委員会

鬼取町から　北側を走る国道308号の方へ戻らず、
逆に生駒山の山腹を北へトラバースして、近鉄生駒駅へ　2015.1.25.

鬼取町から生駒山の山腹に広がる住宅地を眺めながら約1時間歩いて　16:10
近鉄生駒駅にたどり着きました

「大阪には鬼の伝承　聞かないなぁ ??」仲間からと問われ、
よく眺める大阪のシンボル生駒山は古来からの霊峰　修験の山。そして古代　生駒山は鉱物資源帯であり、
その山麓には数多くの渡来の技術集団が住み、数々の伝承があるときく。
それらと関係して　修験の鬼の伝説があったのでは・・・・・・と。

大阪の人は知っておられたのでしょうが、この生駒の鬼が　修験の前鬼・後鬼などとは知りませんでした。
そして　その伝説の地が　よく見上げる暗峠の周辺とは・・・・
この鬼伝承と一緒に一度は越えたいと思っていた暗峠越での道をたどることが出来ました。

枚岡駅から　暗峠越して生駒駅まで　約9km　距離的には大したことないのですが、生駒の駅についた時には
足が棒のようでした。 国道308　奈良街道暗峠越　国道歩きと気楽に思っていましたが、いまさらながらきつい。
今まで見たこともない平坦道のない坂だけの道。酷道の所以。
それが逆に生駒の自然　そして修験の道　古道の道筋をそっくりそのまま残し、鬼伝承の集落も残していると。
本当に面白い古道歩きでした。また、野猿の声が響き渡り、野鳥が飛び交う森　生駒の知らなかった一面も
うれしい鬼walk　大阪の鬼Walkでした

2015.1.25.　夕　Mutsu Nakanishi
心地よい疲れを感じながら
山越えした生駒の山を今度はトンネルでくぐり抜けています

生駒山暗峠周辺の髪切・鬼取の郷に鬼伝承を訪ねる　2015.1.25.

生駒山上の暗峠をはさむ大阪側　東大阪市髪切　奈良側生駒鬼取
大阪河内と奈良の境を形成して南北に連なる生駒山塊は高さこそ低いが、険しい山で、
古くから修験・霊場の山として信仰を集め、山中には今も数多くの霊場・行場がある信仰の
山としてよく知られている

国道308号線・古道　奈良街道が生駒山を越えてゆく暗峠周辺の山腹には
「修験道の開祖　役行者が改心させ、従者にした赤鬼・青鬼」の鬼伝承の郷がある

東大阪市花園ラグビー場から眺める　生駒山上　暗峠　2015.1.24.